

基本情報

学校

伯耆町立八郷小学校

学校運営協議会

八郷小学校学校運営協議会

令和23年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
 地域住民代表
 保護者・PTA関係者
 保育所保護者代表
 保育所・中学校教職員
 自校教職員
 など 15名

会議回数

年間平均6回程度

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員 1名 (1名)

地域コーディネーター 0名 (0名)

地域学校協働本部

伯耆町地域学校協働本部

背景・取組概要

◆地域や自分に確かな自信を持ち「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる」未来の担い手を育成するためには、児童が地域の様々な人と出会い、ともに行動し、多様な考えを知る機会を増やすことが必要と考えた。中でも、「八郷文化展」を企画・運営する活動に関わることで、自ら課題を発見し、主体的に考え行動する力を育てることができると考えた。

→**地域の大人と児童が力を合わせ、協働する地域づくりを目指すことで、未来の担い手を育成する。**

工夫・ポイント・特徴的な取組

八郷文化展

◆地域学校協働活動

地域住民の力を合わせ、地域の文化財や地域住民の作品を一堂に集め展示し、児童が鑑賞することで、地域に誇りと愛着を持ってもらおうと学校運営協議会の発案で、文化展が始まった。以来、学校運営協議会委員とコーディネーターが地域に声をかけ、協力者を募り運営している。昨年度からは、卒業生が中学生ボランティアとして運営に携わっている。

◆学校運営協議会

地域で子どもを育てる活動を推進するために、毎年夏休みに、委員と全教職員との熟議を行っている。直近のテーマは、○学ぶ楽しさ広げようプロジェクト、○地域大好き、八郷大好きプロジェクト、○ボランティア活動の推進と見直し、○八郷文化展の開催、学校と地域、児童のつながりを深めるためになどで、児童が主体的に関わる文化展について意見交換を行った。

◆八郷I(愛)会議

初期の文化展では、児童は地域の方の作品を見るという受け身の関わりだった。回を追うごとに、地域の一員として自分たちも盛り上げたいという機運が高まり、6年生が校内でアンケートをとり、それを材料に「八郷I(愛)会議」を開催し、委員と熟議し企画に関わるようになった。児童が考えた体験コーナーを設置したり、年々地元住民の出品数も来場者数も増えたりするなど地域の活性化にも一役買っている。児童作品、卒業生作品、地域学習の成果物の展示、自宅で制作した児童の特技を活かした作品の出品など、児童の自己実現の場にもなっている。今後は「社会に開かれた教育課程」として、カリキュラムに位置づけた学びとなるよう構想している。



成果・効果

- ◆児童と学校運営協議会が力を合わせ、協働する地域づくりを目指すことで、児童の主体性や行動力が育つとともに、児童や保護者にふるさと八郷のひと・ことに対する理解と愛着が深まった。
- ◆地域と学校、児童と学校運営協議会が連携し、学校という場を核として、地域の活性化を目指すことで、学校と地域の協働がより深まった。

	失敗をおそれず挑戦している	八郷には地域の良さがあり、誇りに思う
	児童	保護者
R4	75%	91%
R6	93%	100%